

海拔ゼロメートルのまち江戸川区が目指す「SDGs = 共生社会」先進都市

東京都江戸川区（2021年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

三方を川や海に囲まれ、東京駅から15分でラムサール条約登録湿地「葛西海浜公園」がある世界的にも珍しい「都市と自然が共生するまち」である。陸域の約7割がゼロメートル地帯で、水害の要因となる「気候変動対策」は喫緊の課題である。また、将来人口推計では2025年をピークに減少をはじめると一方で外国人数は増加。少子高齢化や障害者の増加も予測されており、「誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会(ともに生きるまち)」の実現を目指している。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

水に囲まれ水の恵みに浴する一方、高い水害リスクを抱えている。区民の永住意向は高いが、魅力は十分には伝わっていない。また産業構造も新時代への対応が求められている。そのような逆境の中で、「リスク(危機)」を「チャンス(好機)」と捉え、「SDGs = 共生社会」の実現に向けた先進的な都市モデルを構築する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ・SDGs達成に向けた区民の行動変容モデル（①「知る・理解する」・②「行動する」・③「継続し習慣にする」）を設定。令和5年度はSDGsを「行動を継続し習慣化する1年」と位置づけ、全庁を挙げて集中的に事業を展開した。
- ・SDGsを「習慣化する」取り組みとして9月25日から約2か月間をSDGs推進期間と定め、92事業を実施した。
- ・「SDGsの取り組みやCO2の削減が大切なのはわかるけど、何をすればいいかわからない」という区民の声を受け、楽しみながら身近にSDGsに取り組むきっかけとなり、習慣化を促すようなアプリ（SDGsアプリ「eito」）を区内事業者と共同開発し、10月にリリースした。
- ・令和4年度に引き続き、「SDGs Fes in EDOGAWA」を葛西臨海公園で開催。ステージの内容をYouTubeで生配信する等、リアルとオンラインを含め、延べ4.3万人が参加した。

6. 取組成果

- ・SDGs推進期間中にSDGsの習慣化につながるイベントを開催した。（全92事業）
- ・「SDGs FES in EDOGAWA」を開催し、リアルとオンラインを含め、延べ4.3万人が参加した。
- ・ラグビートップリーグに属するクボタスピアーズと「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」に基づき、15事業を実施した。
- ・江戸川区花火大会において、ごみの持ち帰りを訴求するため、来場者にごみ袋を4万セット（8万枚）配布。ごみの量が前回実施と比べ、約38%減少した一因となった。
- ・SDGsアプリ「eito」を10月にリリース。（ダウンロード者数：2,810人※3.31時点）本アプリでは、SDGsに取り組んでいる区内企業や商店等を「つながるスポット」として登録し、該当の企業等を「SDGsパートナー企業」として、朝日信用金庫の区内全支店を含む107の店舗を登録した。また、アプリ内にボランティアのマッチング機能を搭載し、2,259人が登録。

5. 取組推進の工夫

- ・SDGsアプリ「eito」のリリースに向けて、SDGsやCO2削減につながる身近な行動をチェックできる「デイリーチェック」機能のアイデア出しや、「つながるスポット」登録企業・商店へのお声掛けなど、アプリの開発からリリース後のPRまで区内企業と協働で取り組んだ。
- また、貯まったポイントを使用した「ふくびき」機能では、区内の学生がデザインしたキャラクターを採用し、アプリを通して産・官・学が一体となってSDGsの達成に向けた取り組みを実施した。

7. 今後の展開策

- ・引き続き、SDGsアプリ「eito」を活用し、区民へSDGsを啓発していく。アプリ機能の一つとして、区内でマイボトルへの給水・水分補給を行えるスポットの展開など、さらなるアプリの利用推進を目指していく。
- ・国籍や民族の違いに関わらず、互いの文化的違いを理解し、認め合い、地域の構成員として共生するため、生活相談・日本語学習・相互理解のための交流事業などの機能をもつ多文化共生センターを令和6年10月に開設予定。

8. 他地域への展開状況 (普及効果)

東京都と都内市区町村のSDGsに資する取り組みを横断的に検索できる「東京SDGsボード」にて、SDGsえどがわ10の取り組みやSDGsアプリ「eito」の取り組みを発信した。また、SDGsアプリ「eito」は、日本経済新聞をはじめ、地域コミュニティ新聞にも掲載された。

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

東京都江戸川区

2024年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

江戸川区 SDGs未来都市計画
海拔ゼロメートルのまち江戸川区を目指す
「SDGs = 共生社会」先進都市

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

江戸川区SDGs未来都市計画 海拔ゼロメートルのまち江戸川区が目指す「SDGs = 共生社会」先進都市

(2) 2030年のあるべき姿

本区は、「SDGs = 共生社会」と捉えており、この実現に向けた先進的な都市モデルを実現する。

- ・災害があっても誰一人取り残さないまち：自助・共助・公助のもと全区民が水害対策に取り組むまちの実現
- ・魅力あるまち：まちの魅力が理解され定住人口の増加、多くの人を訪れるまちの実現
- ・新たな時代に即した産業のあるまち：多様な企業価値が創造され新たな時代に即した 産業のあるまちの実現
- ・多様性の中で「共生社会」が実現されているまち：安心して暮らせる「ともに生きるまち」の実現

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	民間との協働プロジェクトによる経済波及効果（累計） 【9.5, 9.b, 17.13】	2020年 0 円	7.45 億円	2030年 10 億円	75%
2	社会課題解決のため、区と連携協定を締結する企業・団体数 【9.4, 12.4, 17.6, 17.17】	2020年 131 件	234 件	2030年 200 件	149%
3	えどがわSDGsパートナー企業登録制度登録企業数 【17.17, 8.3】	2020年 0 社	107 社	2030年 3,000 社	4%
4	えどがわSDGsリーダー企業認証制度認証企業数 【17.17, 9.6】	2020年 0 社	1 社	2030年 50 社	2%
5	「なごみの家（地域共生社会構築の拠点）」設置数 【10.2, 16.7】	2020年 9 か所	9 か所	2030年 15 か所	0%
6	ボランティア・プラットフォーム登録人数（累計） 【16.7, 17.9, 17.16】	2020年 0 人	2,259 人	2030年 100,000 人	2%
7	区への親近感や愛着を感じている区民の割合（区民世論調査） 【11.3, 11.7, 17.17】	2020年 88 %	データなし %	2030年 93 %	—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
8	区内の温室効果ガス排出量【13.2】	2017年 2,237 千トン	データなし 千トン	2030年 1,503 千トン	-
9	葛西海浜公園海水浴場利用者数【14.7】	2019年 49,470 人	57,860 人	2030年 70,000 人	41%
10	区民一人あたりの樹木数【11.7,15.2】	2020年 9.65 本	10.26 本	2030年 10 本	174%
11	区民一人あたりの公園面積【11.7,15.2】	2020年 8.81 m ²	5.31 m ²	2030年 9.12 m ²	-1129%
12	大規模水害時の避難態勢の構築【11.5,11.b, 17.16】	2020年 0.0 %	50 %	2030年 100 %	50%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標3：「えどがわSDGsパートナー企業登録制度登録企業数」
・令和5年10月にリリースしたSDGsアプリ「eito」（以下、SDGsアプリ）の機能のひとつに、SDGsに取り組んでいる区内企業や商店等を「つながるスポット」として登録し、該当の企業等を「SDGsパートナー企業」とする登録制度を構築した。SDGsアプリを通して、登録企業のSDGsの取り組みが広がり、SDGsパートナー企業の登録が増えていくと考える。
- 指標4：「えどがわSDGsリーダー企業認証制度認証企業数」
・江戸川区産業賞の中で、令和4年度から新たに「SDGs推進事業所表彰」を設け、令和4年度～5年度にかけて2社の企業の表彰した。今後もSDGs推進事業所表彰を継続し、SDGsリーダー企業として育成・連携を実施していく。
- 指標6：ボランティア・プラットフォーム登録人数（累計）
・ボランティアプラットフォームについては、SDGsアプリ内にボランティアのマッチング機能を搭載することで、「登録人数」を把握する。
- 指標11「区民一人あたりの公園面積」
2020年当初値および2030年の目標値に誤りがあり、達成度がマイナスとなっていますが、正しい数値は以下の通りとなるため、達成度は34%となる。
【指標】 2020年当初値：8.81m²⇒5.21m² 2023年実績値：5.31m² 2030年目標値：5.50m²
- 「情報発信・啓発普及」
・令和5年度は、令和4年度に引き続き葛西臨海公園にて開催。当日のステージの様子をYouTubeで生配信する等、リアルとオンラインを含め約4.3万人が参加した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	①水害があっても誰一人取り残さないまち	避難計画が策定されている災害時避難行動要支援者数	2021年 1,400 人	2021年 360 人	2022年 360 人	360 人	2023年 5,000 人	-29%
2	①水害があっても誰一人取り残さないまち	災害発生時の支援活動への参加意向（区民世論調査）	2021年 12.4 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	データなし %	2023年 50 %	-
3	②自然と都市が共存する魅力あるまち	葛西海浜公園海水浴場利用者数	2019年 49,470 人	2021年 13,404 人	2022年 68,637 人	57,860 人	2023年 55,000 人	152%
4	②自然と都市が共存する魅力あるまち	区内で行われたロケーション撮影の件数	2019年 260 件	2021年 295 件	2022年 297 件	249 件	2023年 500 件	-5%
5	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	デジタル技術導入助成制度活用企業数	2021年 6 社	2021年 2 社	2022年 2 社	4 社	2023年 15 社	-22%
6	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	デジタルコンサルティング補助事業活用企業数	2021年 0 社	2021年 0 社	2022年 3 社	0 社	2023年 15 社	0%
7	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	えどがわSDGsパートナー企業に対する融資支援制度活用企業数	2021年 0 社	2021年 1 社	2022年 3 社	1 社	2023年 100 社	1%
8	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	障害者のスポーツ実施率	2021年 31.4 %	2021年 データなし %	2022年 27.9 %	データなし %	2023年 34.5 %	-
9	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	みんなの就労センター登録者数	2021年 0 人	2021年 169 人	2022年 284 人	362 人	2023年 240 人	151%
10	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	外国人との交流に関する地域活動への参加意向（区民世論調査）	2020年 12.6 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	データなし %	2023年 20 %	-

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・令和5年10月に区内企業との共同開発により「SDGsアプリ」のリリースした。
本アプリは、「SDGsの取り組みやCO2の削減が大切なのはわかるけど、具体的に何をしたらよいかわからない」という区民の声を受け、日々のSDGs行動をアプリ画面に表示し、区民が自発的に行動できる仕組みを構築するとともに、実際の行動を数値として可視化できるアプリとなっている。
さらに本アプリでは、SDGsに取り組んでいる区内企業や商店等を「つながるスポット」として登録し、該当の企業等を「SDGsパートナー企業」として登録制度を構築する機能を搭載した。
また、ボランティアプラットフォームについては、アプリ内にボランティアのマッチング機能を搭載することで、「登録人数」を把握する。
今後の展望として、区内の企業や商店等でマイボトルへの給水・水分補給を行えるスポットの紹介や夏季期間中に夏の暑さを一時的にしのげるクーリングシェルターの登録など「つながるスポット」の機能をさらに拡充させ、地域を巻き込んだ多角的なSDGsの貢献及びアプリの利用推進を目指していく。
・「SDGsリーダー企業認証制度」については、江戸川区産業賞の中で、令和4年度から新たに「SDGs推進事業所表彰」を設け、令和5年度は令和4年度に引き続き、1社を表彰した。
今後もSDGs推進事業所表彰を継続し、表彰企業をSDGsリーダー企業として育成・連携を実施していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：「避難計画が策定されている災害時避難行動要支援者数」
・令和5年度は要件見直しにより達成率がマイナスとなっているが、令和6年度に対象者全員の個別避難計画を作成予定である。
●指標2：「災害発生時の支援活動への参加意向（区民世論調査）」
・令和3年度より「町会・自治会に求める地域活動」に調査項目の見直しがあったため、第2期計画では、避難所運営協議会の設立数に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定である。
●指標4：「区内で行われたロケーション撮影の件数」
・ロケーション撮影のための撮影地及び撮影実績を含めた情報提供の充実を図るとともに、撮影支援にかかる相談窓口（広報課）を含めた庁内の連携機能をDXの推進により高めていく。
●指標5：「デジタル技術導入助成制度活用企業数」
・当初2030年目標値を15社としていたが、「DX促進・伴走支援事業」等の新たな施策展開等を鑑み、年間の企業数を6社に見直し必要経費を予算計上している。
●指標6：「デジタルコンサルティング補助事業活用企業数」
・制度の見直しを検討しつつ、令和4年度に開始した「DX促進・伴走支援事業（無料）」の周知を行い、区内事業者のDX推進の機運の醸成に努めていく。
●指標7：「えどがわSDGsパートナー企業に対する融資支援制度活用企業数」
・今後の経済状況にもよるが、ポジティブな資金需要が高まるタイミングで効果的なPRを合わせていく必要がある。
●指標10：「外国人との交流に関する地域活動への参加意向（区民世論調査）」
・令和5年度に外国人区民世論調査を実施したため、区民世論調査の調査項目から外れた。第2期計画では「江戸川区は住みやすい」と回答した外国人の割合に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定である。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・海拔ゼロメートル地帯において、SDGsの総合的枠組みを活用して、水と共生する取組を展開していることは、具体的に高く評価される。「継続し習慣にする」視点はSDGsの取組として高く評価され、全国のモデルとなるものである。

東京都江戸川区 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	民間との協働プロジェクトによる経済波及効果（累計） 【9.5, 9.b, 17.13】	2020年 0 円	2023年 7.45 億円	2030年 10 億円	75%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	社会課題解決のため、区と連携協定を締結する企業・団体数 【9.4, 12.4, 17.6, 17.17】	2020年 131 社	2023年 234 社	2030年 200 社	149%	目標達成ができており、第2期計画ではKPIを250社に見直し更なる推進を図る予定。
3	えどがわSDGsパートナー企業登録制度登録企業数 【17.17, 8.3】	2020年 0 社	2023年 107 社	2030年 3,000 社	4%	目標達成が低いため、第2期計画ではSDGsアプリ「eito」の「つながるスポット」の登録店舗数に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
4	えどがわSDGsリーダー企業認証制度認証企業数 【17.17, 9.6】	2020年 0 社	2023年 1 社	2030年 50 社	2%	目標達成が低く、第2期計画のKPI指標ではないが、引き続きSDGs推進事業所表彰を継続していく。
5	「なごみの家（地域共生社会構築の拠点）設置数 【10.2, 16.7】	2020年 9 か所	2023年 9 か所	2030年 15 か所	0%	第1までのKPIとする。
6	ボランティア・プラットフォーム登録人数（累計） 【16.7, 17.9, 17.16】	2020年 0 人	2023年 2,259 人	2030年 100,000 人	2%	目標達成が低いため、第2期計画のKPIとはしていないが、SDGsアプリ「eito」の「ボランティア機能」を活用し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
7	区への親近感や愛着を感じている区民の割合（区民世論調査） 【11.3, 11.7, 17.17】	2020年 88.0 %	2023年 データなし %	2030年 93 %	-	第1期までのKPIとする。
8	区内の温室効果ガス排出量【13.2】	2017年 2,237 千トン	2023年 データなし 千トン	2030年 1,503 千トン	-	目標達成ができており、第2期計画ではKPIを温室効果ガス排出量の削減率に見直し更なる
9	葛西海浜公園海水浴場利用者数【14.7】	2019年 49,470 人	2023年 57,860 人	2030年 70,000 人	41%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
10	区民一人あたりの樹木数【11.7, 15.2】	2020年 9.65 本	2023年 10.26 本	2030年 10 本	174%	目標達成ができていないことから、第1期までのKPIとする。
11	区民一人あたりの公園面積【11.7, 15.2】	2020年 8.81 m ²	2023年 5.31 m ²	2030年 9.12 m ²	-1129%	目標達成が低いため、第2期計画では、目標値を5.5m ² に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
12	大規模水害時の避難態勢の構築【11.5, 11.b, 17.16】	2020年 0.0 %	2023年 50 %	2030年 100.0 %	50%	目標達成が低いため、第2期計画では大規模水害時自主的広域避難補助の啓発に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	①水害があっても誰一人取り残さないまち	避難計画が策定されている災害時避難行動要支援者数	2021年 1,400 人	2023年 360 人	2023年 5,000 人	-29%	目標達成が低いが、令和6年度に対象者全員の個別避難計画を策定予定。
2	①水害があっても誰一人取り残さないまち	災害発生時の支援活動への参加意向（区民世論調査）	2021年 12.4 %	2023年 データなし %	2023年 50 %	-	目標達成が低いため、第2期計画では、避難所運営協議会の設立数に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
3	②自然と都市が共存する魅力あるまち	葛西海浜公園海水浴場利用者数	2019年 49,470 人	2023年 57,860 人	2023年 55,000 人	152%	目標達成ができていないことから、第1期までのKPIとする。
4	②自然と都市が共存する魅力あるまち	区内で行われたロケーション撮影の件数	2019年 260 件	2023年 249 件	2023年 500 件	-5%	第1期までのKPIとする。
5	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	デジタル技術導入助成制度活用企業数	2021年 6 社	2023年 4 社	2023年 15 社	-22%	目標達成が低いため、第2期計画ではDXに取り組み、競争力強化を実現する企業数に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
6	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	デジタルコンサルティング補助事業活用企業数	2021年 0 社	2023年 0 社	2023年 15 社	0%	目標達成が低く、第2期計画のKPI指標ではないが、令和4年度に開始した「DX促進・伴奏支援事業」の周知を行い、区内事業者のDX推進の機運醸成を図る。
7	③新たな時代に求められる産業が生まれるまち	えどがわSDGsパートナー企業に対する融資支援制度活用企業数	2021年 0 社	2023年 1 社	2023年 100 社	1%	目標達成が低く、第2期計画のKPI指標ではないが、資金需要が高まるタイミングで効果的なPRを行っていく。
8	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	障害者のスポーツ実施率	2021年 31.4 %	2023年 データなし %	2023年 34.5 %	-	目標達成に向けて順調にしているが、第2期計画では、参加可能な教室事業などが実施されているパラリンピック競技数に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。
9	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	みんなの就労センター登録者数	2021年 0 人	2023年 362 人	2023年 240 人	151%	目標達成ができており、第2期計画ではKPIを630人に見直し更なる推進を図る予定。
10	④多様性を尊重し共生社会が実現しているまち	外国人との交流に関する地域活動への参加意向（区民世論調査）	2020年 12.6 %	2023年 データなし %	2023年 20 %	-	目標達成が低いため、「江戸川区は住みやすい」と回答した外国人の割合に見直し、取り組み達成に向け推進を図る予定。

東京都江戸川区 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

（3）第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容

取り組み達成が低い指標名については、令和4年8月に策定した「2030年の江戸川区SDGsビジョン」に沿った目標値や具体的施策にKPIを見直し、取り組み達成に向け推進を図る。

【2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況】

●指標11「区民一人あたりの公園面積」

2020年当初値および2030年の目標値に誤りがあり、達成度がマイナスとなっていますが、正しい数値は以下の通りとなるため、達成度は34%となる。

【指標】2020年当初値：8.81㎡⇒5.21㎡ 2023年実績値：5.31㎡ 2030年目標値：5.50㎡

【自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況】

●指標1：「避難計画が策定されている災害時避難行動要支援者数」

・令和5年度は要件見直しにより達成率がマイナスとなっているが、令和6年度に対象者全員の個別避難計画を作成予定である。

●指標4：「区内で行われたロケーション撮影の件数」

・ロケーション撮影のための撮影地及び撮影実績を含めた情報提供の充実を図るとともに、撮影支援にかかる相談窓口（広報課）を含めた庁内の連携機能をDXの推進により高めていく。

●指標5：「デジタル技術導入助成制度活用企業数」

・当初2030年目標値を15社としていたが、「DX促進・伴走支援事業」等の新たな施策展開等を鑑み、年間の企業数を6社に見直し必要経費を予算計上している。

●成果

SDGsアプリ「eito」の「つながるスポット」や「ボランティア機能」を活用し、SDGsに取り組む企業やボランティアの登録人数を把握する等、プラットフォームを構築することができ、区民・企業・地域を巻き込んだ多角的なSDGsの推進を実施することができた。

●今後の展望

・第2期計画では、SDGsビジョンの目標値に沿ったKPIを設定し、SDGsの推進を図っていく。

・引き続き、SDGsアプリ「eito」を活用し、区民へSDGsを啓発を図る。アプリ機能の一つとして、区内でマイボトルへの給水・水分補給が行えるスポットの展開など、機能の拡充を行い、更なるアプリの利用促進を目指す。

・国籍や民族の違いに関わらず、互いの文化的違いを理解し、認め合い、地域の構成員として共生するため、生活相談・日本語学習・相互理解のための交流事業などの機能をもつ多文化共生センターを令和6年10月に開設予定。

（4）有識者からの取組に対する評価

・SDGsアプリ「eito」の普及は進んでいるのだろうか？「えどがわSDGsリーダー企業認証制度認証企業数」がまだ1社とのことだが、今後は他の認証制度との連携可能性なども含めて充実させる必要がある。